

ネイティブ・ポーキン・パンクレオザイミン

Cat. No. NATE-0113

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明 コレシストキニン は、脂肪とタンパク質の消化を刺激する消化管系のペプチドホルモンです。コレシストキニンは、以前はパンクレオザイミンと呼ばれており、小腸の粘膜上皮にある細胞によって合成され、腸の最初の部分である十二指腸に分泌され、膵臓と胆嚢からそれぞれ消化酵素と胆汁の放出を引き起こします。また、空腹感を抑制する作用もあります。最近の証拠は、コレシストキニンがモルヒネやヘロインのようなオピオイドに誘導する耐性を誘導する主要な役割を果たし、オピオイド離脱中の痛みの過敏症の試験にも一部関与していることを示唆しています。

用途 コレシストキニン (CCK) は、脂肪とタンパク質の消化を刺激する消化管系のペプチドホルモンです。これは、脳、腎臓、膵臓の機能、ならびに生殖行動やグルコース耐性を研究するために使用されます。

別名 コレシストキニン、CCK、CCK-PZ; 9011-97-6; パンクレオザイミン

製品情報

種	豚の
由来	豚の腸
CAS登録番号	9011-97-6
活性	2-6 クリック単位/ mg 固体

保管・発送情報

保存方法	2-8°C
-------------	-------